

## 「採用試験の在り方を考える専門家会合」（第3回）議事要旨

1 日時：平成20年7月28日（月） 9:30～11:30

2 場所：人事院第1特別会議室

3 出席者（五十音順）

岩澤 康裕	東京大学大学院理学系研究科教授
金井 利之	東京大学大学院法学政治学研究科教授
工藤 裕子	中央大学法学部教授
高橋 滋	一橋大学大学院法学研究科教授（座長）
土井 真一	京都大学大学院法学研究科教授
野澤 正充	立教大学大学院法務研究科教授
廣瀬 壮一	東京工業大学大学院情報理工学研究科教授

（欠席：岡田 真理子 和歌山大学経済学部准教授、吉野 直行 慶應義塾大学経済学部教授）

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 各府省からのヒアリング
  - ・ 国土交通省
  - ・ 財務省
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

5 議事概要

### 【国土交通省からのヒアリング】

国土交通省から、資料に沿って、国土交通省の業務・組織、採用及び人事管理の実態等について説明がなされ、出席者から大要以下のような意見等が示された。

- 経験者採用システムによる採用者の年齢層はどのくらいか。また、平成19年度の経験者採用システムの実施結果を見ると、申込者数は前年度に比べ大幅に増加しているものの、実際に受験した者の割合は下がっているが、これはどういった理由によるものか。

- 採用試験に合格しない人でも将来性がある人が相当数いるとのことだったが、その傾向は事務系・技術系に共通するものか。
- 改革意欲があるとか、問題解決型の学生を採りたいということは理解できるが、試験制度では、客観性、試験の透明性を確保することが重要であり、どのようにすれば、問題解決型を目指しつつ、客観性が担保できると思われるか。
- 公務員のイメージが悪くなっており、有能な人材が公務を志望しなくなっているとの話があったが、そのような悪いイメージの中にもかかわらず志望してきた者の方が、志があって、粘りがあるという見方もできるのではないか。
- 現在、そつないまじめな学生が増えているとのことだが、公務員の不祥事を考えると、これから求められている像と合致しているとも言えるのではないか。
- 改革意欲を持った問題解決型の職員が欲しいとの話があったが、I種行法経区分の専門記述式試験において、平成18年に公共政策を選択科目として追加し、問題解決型への見直しが行われているが、法律職・経済職からの採用が多数で行政職からの採用はあまりないようだが、改革意欲や粘り強さ、問題意識を持つ人材の確保に関し、採用側から見て、この見直しの効果についてどのようにお考えか。
- 採用において、各府省で有能な人材を取り合っているという状況の中で、一括採用論についてどう考えるか。
- 技術系区分からの採用者でも法案の策定作業などに従事しているが、事務系・技術系に分けて採用するという理由は何か。
- 専門職大学院以外の大学院からどの程度採用されているか。技術系区分では院卒者の割合が多いのではないか。

#### 【財務省からのヒアリング】

財務省から、資料に沿って、財務省の業務・組織、採用及び人事管理の実態等について説明がなされ、出席者から大要以下のような意見等が示された。

- 法科大学院や公共政策大学院の出身者について、学部卒の者と比べてどのような印象を持っているか。
- 財務省の中では、国税専門官はかなり専門的な職種と考えられると思うが、それ以外に専門職として考えられる職種はどのようなものがあるか。
- 本省の採用者と国税庁・財務局・税関の採用者を合わせてI種35名となっているが、35名からどのように本省採用者を決めるのか。また、本省とそれ以外との間で人事交流は行われているのか。
- 採用試験は、専門的知識や論理能力をみる試験であるが、各府省の採用に当たっては、どのような観点から能力を判断されているのか。また、個々の職員の適性或能力は、採用後、どの程度の期間で分かるものなのか。
- 実際に採用を行った経験から、どのような採用試験にすればよいと考えているのか。

以 上

(文責：専門家会合事務局 速報のため事後修正の可能性あり。)